

清流 復活へ 大和川の挑戦

10

「日本一汚い川」からの脱却

昨年11月に県が中心になつて設立した「大和川清流復活ネットワーク」。信用金庫（桜井市）だ。業に結び付く取り組みと

を上乘せする「大和川定期預金」で知られる大和をスタート。金融業の本業に結び付く取り組みと

浄化度で金利上乘せ

行政、NPOなどとともに、企業との「協働」で大和川の浄化を図ろうとするのが新しい点。県内企業の中で積極的な活動をしているのが、水質改善の度合いによって金利

最高1%の金利を上乘せするという夏季限定のユニークな商品。予想以上の反響があり、初回は50億円の募集枠に59億円の応募があった。4回目となる今年も70億円の枠に83億円の申し込みがあった。

同金庫は、CSR（企業の社会的責任）という言葉が一般的になる前から各店ごとに地域に根ざした社会貢献活動をしてきたが、平成16年12月に「CSR検討委員会」を

河川の水質の指標であるBOD（生物化学的酸素要求量）値が改善される度合いによって、スーパー定期預金（1年）に

きかった。平成19年の地球環境大賞のほか、日本環境経営大賞など八つの賞を受賞した。CSR委員会の新元秀副委員長は「過去3回のうち2回は金利を上乘せできた。お

企業との協働



9月に開かれた県環境フェアに出展し、大和川の清流復活を訴えた大和信用金庫の活動

客さまに川の浄化を理解してもらい、喜んでもらうのは大きな成果」と話す。

同金庫はこのほか、

「ふるさと大和川源流体験ツアー」開催や「大和川一斉清掃」への職員の参加、啓発リーフレット「私たちと大和川」製作

といった幅広い活動を展開している。新副委員長は「9月に県環境フェアに出展して大和川クイズを行ったが、まだまだ大和川についてよく知らない人が多い。大和川はワースト1を返上してワースト2位となったが、ワースト5を脱却できるまでは頑張りたい」と、さらなる水質改善に意欲をみせている。

◆ 県河川課は、自治会などが行う除草・清掃活動などを支援する「地域が育む川づくり事業」を実施しており、企業などの参加も募集している。 〓 毎月1回、下旬に掲

当記事を奈良新聞社に無断転載することを禁じます。

21年10月30日(金)

奈良新聞

朝・夕